



# 新聞

JADDO 第8号  
1994年11月25日 新

JADDO  
アジアのこども達を援助する会

事務局：〒895 鹿児島県 川内市 神田町 11-20  
若松記念病院となり 寿泉堂薬局  
TEL. 0996-20-1402

## ホンケ村小学校

JADDO新聞第6号でお伝えしたように、ホンケ村小学校へは9月に文房具を届けましたが教科書はまだでしたので10月に相談に行きました。

校長先生のおっしゃるには1年生には国から国語と算数の教科書が届き、1年生の受け持ちの先生には理科、社会、音楽、体育などの教育の方法も指導があった。しかし他の学年の先生たちへの指導はなかった。現在ほしいのは音楽の教科書だ。ということでした。

音楽の本をこれまで目にしたことがなかったのでピエンチャンに事務所を持つ日本のNGO（民間ボランティア組織）である曹洞宗ボランティアを訪ねました。聞いたところラオスの音楽の授業とは口伝えで歌を習い覚えることだそうで、音楽の本とは歌詞カードのことだそうです。曹洞宗ボランティアで作った歌詞カードをいただいてホンケ小学校へ届けました。

また、曹洞宗ボランティアに指導をもらいながら5冊ずつ10種類の絵本、童話、読み物（全てラオス語、曹洞宗ボランティアやラオスのこどもに絵本を送る会などの寄付金でラオス文部省が作った。）をそろえて届けました。

絵本等の供与にともなって本のおもしろさを知ってもらうために「本の読み聞かせ」もやっていたくことになりました。ラオスの子供たちは教科書だって持っていないのですから家に絵本など持ってい



る子はほとんどいません。そもそも国で作っている絵本はほとんどが今年から作りはじめたものです。

本を読むとその中にすばらしい世界が広がっていることを知らないのですから、いくら本を届けても職員室のすみでほこりをかぶるだけです。先生たちにしても、国に読み物がないのですから本をたくさん読んだことのある先生は少ないのです。

11月2日に曹洞宗ボランティアからプータバンさんが読み聞かせにホンケ小学校に来てくださいました。1、2年生には虫がくだものを食べていく大きな絵本とラオスのお伽話でした。虫が果物を食べるころでは子供たちがいつせいにムシャムシャと声を合わせたりしてすっかり本の世界に入りこんでいました。

3、4、5年生にはラオスの伝説でした。こちらもお話に合わせてうれしそうにしたり不安げな顔になったりしていました。

プータバンさんの読み聞かせのすばらしさに先生たちも感動していました。これを機会に子供たちが本を好きになってくれるとうれしいですね



## ラオスの新聞

ラオスでは本を読む人が少ないと書きましたが、新聞を読む人もほんの一部です。以前わたしがラオス人の知り合いに新聞を買ってきて欲しいと頼んだ時、いつの新聞かと聞かれました。

日刊新聞の発行部数1万3千部（1000人あたり3部）という記録があります。ただしこれまで1枚（二つ折りして4ページ）だった国営日刊新聞が、このごろ2枚（8ページ）になって商品や会社のコマーシャルが載っているのに気がきました。たぶん発行部数も増えていることでしょう。

でも国中どこでも、誰でも、毎日、新聞が読めるようになるのはかなり先のことでしょう。

## 九州郵政局主催 国際貢献講演会

10月6日（国際ボランティアの日）に 鹿児島山形屋にて国際貢献講演会がありJADDOに講演の依頼が来ました。会長の帖佐はラオス滞在中だったのでかわって若松郁子監査役が講演しました。

ちょうど9月末にラオス訪問をしたところだったのでその体験を帖佐からの報告と併せて講演しました。スライドも用意していたのが会場の都合で使えず残念だったそうですが多くの方が興味深く聞いてくださったようです。

国際ボランティア貯金の配分を受けている鹿児島県のもうひとつのボランティア組織FestaTDの活動報告もあったそうです。

講演することが決まったのが10月2日だったために会員の皆様にはご連絡できずに失礼いたしました。

## 国際ボランティア貯金の日とは

開発途上地域の人々の福祉の向上と国民参加による草の根援助によって平和で安定した国際社会の実現に貢献するため、平成3年1月から国際ボランティア貯金の取り扱いが開始されました。

また、この貯金の創設を記念して郵政省では10月6日を「国際ボランティア貯金の日」と設定しました。この日にちなみ上記講演会の他、国際協力に関する作文の募集もありました。

若松郁子監査役はこの作文募集に応え、応募しました。原稿が届きましたのでごらんください。

## 国際ボランティア貯金を通しての国際貢献

若松郁子

国際ボランティアという言葉はよく見聞きする事ですが、それを実行する事は、なかなか出来ないものだと思っていました。

それが長女の発案によって、2年前、JADDO（じゃっど）と言うボランティア組織を結成して、今では私もその一員として活動の一端を担っているのです。この活動のきっかけは、ほんの偶然からでした。長女の夫は、92年秋からJICA（ジャイ

カ・国際協力事業団）として発展途上国の子どもの達の予防接種の指導するために、ラオスに派遣されており、その随伴家族として長女も現在ラオスに住んでいます。長女は最初の1年位は1週間位の滞在をしながらのラオス往復を数回繰り返していました。

その時ラオスの国が貧しい国（一人当たりGNP 200ドル 90年）である事と併せて学校環境の貧しさを見て、何か私に出来ることはないだろうか？と考えたようです。それを私も聞き知らされてすぐ賛同し、会員となり協力する事になりました。

ラオスの子ども達の学校教育環境をよくするために、組織を作りたいと、呼びかけましたら、長女の出身高校、大学の同窓生、当地青年会議所会員、私がかかわっております事業所の職員そして家族達、百余名の賛同を得てJADDOの組織が結成されました。

組織の名称JADDOは、鹿児島県人ならジャイカ（そうですか）と聞くと、ジャッド（そうです）と答えなくなる事からつけられたのです。

92、93年度は会員の協力によりドンカラム村の小学校の校舎補修、文房具供与をして井戸堀は川内川内青年会議所の寄付金で出来ました。今年度はボランティア貯金の寄付金の配分金を頂きまして有りがたい事でした。更にタラート村の小学校に文房具供与を行い、リトルドクタープログラム（衛生教育を子ども達にする事により、子どもを通じて両親教育を行なう）など、すすめています。

私は、本年9月に1週間ばかりラオスに行く機会を得まして、その援助している小学校を訪ねました。実際に見る学校環境は予想以上に貧しさと言いましようか、教育関係の整備だけでなく、生活面までもまだまだどうしようもない状態でした。校舎は土間づくりで壁や扉が付いていたら立派な方で机や椅子そして教卓に黒板、今私達の周りには見ることも出来ないような使いふるした、ほこりっぽいものでした。校庭は、でこぼこで牛の糞や紙屑などあっても平気で過ごしている有様です。水道設備など全くなく井戸もありません。トイレは確認できませんでした。状況からして設置されていないと推定されます。教科書はこの頃世界銀行の援助で少しずつ整ってきているとの事でしたが、今のところ先生達に教科書を使った授業法を教育中の由です。学校は2部制になっていて、先生達の最終学歴は小学校卒のようでした。

あらためて日本の子ども達は、豊かに育ち立派な教育環境に恵まれている事を思います。私達日本人の生活の幸せを一層深く感じました。

国際ボランティア貯金をする事によって、その貯金利息の2割が国際援助事業へ配分される事とても意義深いことです。世界各国でその地域が求める援助事業となり、その地域の文化を壊すことなく、子ども達の学校環境に援助活動を続けられたらと思っています。更にJADDOの会員が増加し、ボランティア貯金の意義が浸透されていく事を願っています。

（注・文中ドンカラム小学校の校舎補修と有りますが今のところ校舎補修はホンケ小学校だけです。届いた原稿のまま載せました。）